こどもが
こどもでいられる
社会を。

PIECES

PIECES
活動報告書

2016.11 - 2017.10

NPO法人　PIECES
活動報告書

代表挨拶

子どもの孤立について

事業報告

ー　人材を育成する

ー　子どもを支援する

ー　社会に伝える

活動決算書

子どもも、大人も、誰もが尊厳を持ち、
平和に向かっていける社会をめざして。

医療の現場から、NPO設立へ

初めまして。PIECES の代表を務めている小澤と申します。
私は、これまで、児童精神科医として、「誰かから大切にされた経験がない」「安心できない」「困窮している」といった環境において、今日を必死で生きながらも、安心して頼れる他者がいない中、孤立し、生きづらさを深めていく子どもに日々出会ってきました。

日本でも、５人に１人の子が困った時に相談できる人がいないと感じています。
ある子は、家庭内での暴力が絶えず、その原因を自分のせいだと感じていました。その子の周りにいた人たちはが気づくことなく、その子は、誰にも相談できず、一人で苦しんでいました。
私がその子と出会ったのは、その子が１人で苦しみ、危機に陥ってからでした。

同じ課題が繰り返され続ける前に、子どもも安心して生きられる、優しい有機的な社会のシステムを創りたいと、NPO を立ち上げました。

「安心で安全な環境」からはじめる

私達は、誰もが権利と尊厳をもち、平和を紡いで生きられる社会を目指して活動しています。平和はプロセスです。私達が進んでいく道そのものです。そして、そのプロセスの基盤となるのが、一人ひ とりの存在を尊重し合える「安心で安全な環境」です。そのような環境があって初めて、人もコミュニティ も社会も健やかに、そして豊かに成長・発達することができます。

私達は、その「安心で安全な環境」が、今を生きる子どもたちの、そして、未来をつくる子どもたちの周りに生まれる ことこそ、平和のプロセスを前に進める力になると考えています。そのような環境を子どもたちと、そして多分野の方々と共にデザ インすることを通して、子どもの育つ環境に投資ができる社会をつくっていきます。

問い続けながら、社会に新しい価値と文化を

取り巻く環境が多様化､複雑化している今､改めて安心・安全を感じられる環境や関係性の在り方を問い直し、デザインし、創造していく必要があります。

子どもたち自身の願い、子どもたちに対しての願いを紡ぎながら、共に問い、描き出し、カタチにし、また問うていく。それが本当に価値あるものなのか、健やかで豊かな成長・発達を促すものなのか、平和のプロセスを進んでいるのかを絶えず確かめながら、社会に新たな価値と文化を共創していくことが、私たちの使命です。

世界を視野に

これまで、PIECES だけではなく、自治体の研修やアドバイザーを務めてきました。また、世界各国のリーダーが集まるザルツブルグカンファレンスなどの国際会議においても、日本の子どもの現状について伝え、子どものウェルビーイング達成に向けて世界を視野に活動を続けています。日本、そしてひいては世界の子どもたちが、孤立しない、安心で安全な環境で暮らしていける、より良い未来は、多分野の方々との共創により、社会を前に動かしていくことで実現します。

ここまでたくさんの方々の応援で生まれてきたプロセスを、これからもっと深め、広げていけたらと思っています。

代表　小澤いぶき

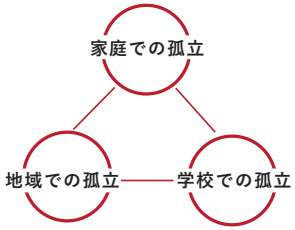
現代に潜む、日本の「子どもの孤立」

日本の子どもを取り巻く現状として、貧困や虐待、不登校などの課題があります。その他にも、神経発達症、若年妊娠・出産、非行など看過できない状況にいる日本の子どもたちが多くいます。

貧困 7 人に 1 人

虐待通告数 12 万件

不登校 12 万人



貧困・虐待・不登校などの社会課題の背景にあるのは、
子どもの 3つの孤立

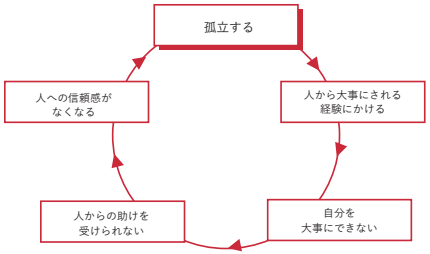
それらの表面化した課題の背景には、共通して潜む「孤立」という課題があります。家庭での孤立、学校での孤立、地域での孤立。家族がいない。家族がいても、寂しい思いをしていたり、虐待のなかに生きる子たち。
学校のなかで、信頼できる先生や友達がいなかったり、不登校の状態にある子たち。
貧困や障がい、非行などが原因で、地域との繋がりが薄れていっている子たち。

「頼りたいけど、頼れない。」

孤立した子たちは、誰かと信頼関係を築いたり、何かあった時に助けを求めたり、何かをやりたいと願ったり、何かやりたい時に色々な選択肢の中から自分で決めたりするといったことが難しくなります。

「自分は頑張っても意味がない」「誰も助けてくれない」

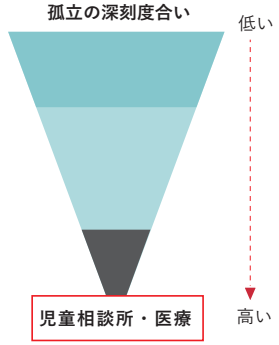
子ども達は孤立してしまうと、このように思うようになります。そして、子ども達の中から、遊びたい、学びたい、何かをやってみたい、自分で挑戦したいという意欲がなくなっていきます。孤立してしまうと、人への信頼感がなくなり、他者とつながれる機会があったとしても、人と繋がる意欲すらなくなってしまいます。
人への信頼感がなくなると、さらに孤立し、困難が大きくなります。
だからこそ、私たちはこのループが生まれづらい社会を作っていく必要があると思っています。



孤立のループ

仕組みから、とりこぼされている子どもたち

集団などに馴染めず、自分から助けを求めることができない「孤立した子ども」は、現状の学校や民間の支援先に繋がることができず、専門機関につながることとなります。しかし、専門機関や行政は逼迫化しており、全ての子どもたちに十分な手が届かなくなっています。そのため、孤立の深刻度が中程度の子どもたちはとりこぼされてしまっています。



市民の支え手を増やすことで、子どもが孤立しない仕組みをつくる

「つながりの提供」による、孤立への対処・予防

そのような課題を抱えるときに鍵となるのが「信頼できる他者」に出会えるかどうかということです。私たちPIECESは、「信頼できる他者」となるため、孤立した子どもたちをサポートする大人（コミュニティユースワーカー）の育成を行い、孤立の解消と予防に取り組んでいます。コミュニティユースワーカーは、子どもたちの日常に寄り添い、興味関心に目を向け、できること・好きなことを起点として、たくさんの信頼できる大人との出会いやコミュニティを接続していく役割を持ちます。

わたしたち PIECES は、このような「子どもの孤立」を市民の力で解決しようと取り組んでいます。子どもと継続的・日常的につながりをつくっていく「コミュニティユースワーカー」という市民からなる支援者を育成し、実際のこどもたちを「ひとりぼっちにしない」ための活動を地域につくっています。
「コミュニティユースワーカー」がつくる活動は、一人の子に丁寧に寄り添うことで「ひとりぼっちにしない」ことを主眼においた活動です。
現在、「子育て」というと家庭や専門的な職業の人がやるものであるという価値観があります。私たちは、そういった規範が社会に残っている限り、本当の意味での孤立はなくならないと思っています。
子どもを社会で育てていくことで、子どもも大人も、そして社会もより成熟したものになっていくと考えています。
孤立した子ども達に寄り添う市民の担い手を輩出することで、そうした社会自体を変えていくことを目指します。

子どもが孤立しない仕組みをつくるための
３つの事業

01. 人材を育成する

02. 子どもを支援する

03. 社会に伝える

01. 人材を育成する

コミュニティユースワーカー育成プログラム

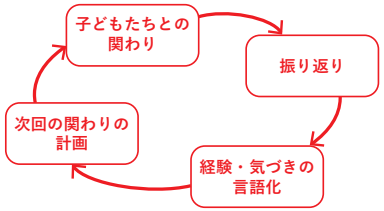
このプログラムでは、子どもの孤立を解消するために地域で子どもを支援することのできる人材を輩出することを目的としています。

「人と人とがよい関係を築くには？」を徹底的に学ぶ独自プログラム

私たちは、2016 年から子どもと活動することへ興味のある一般市民（専門的な資格の有無を問わない）を対象として、孤立した子どもたちの支援を行うための「コミュニティユースワーカー」として育成するプログラムを展開してきました。
孤立した子どもたちの支援を効果的に行うためには、ある種のスキルやマインドセットが必要になります。例えば、どの支援にも繋がっていない子どもたちへのアウトリーチ活動や、子どもたちと関係性を築く技術、そのための思考方法などがあります。

実践と理論を行き来しながらチームで学ぶ

スキルやマインドセットを学習するために、4〜6 ヶ月間の実習と研修プログラムを行なっています。具体的には、実際に孤立した子どもたちと週 1〜2 回程度の活動と、発達心理学や精神医学などの必要な知識を、学習科学の知見に基づいて、学ぶためのゼミを月に 2 回行っています。実践と理論を行き来しながら学びます。



▲研修プログラムの学習モデル

Adviser

法政大学教授	湯浅誠
BasicphJAPAN／臨床心理士	新井陽子
BasicphJAPAN／臨床心理士	岡田太陽
東京都児童相談センター臨床心理士	足利安武
臨床心理士	緒方広海

様々なところで活動するコミュニティユースワーカー修了生

第 1 期・第 2 期では各 8 名、第 3 期では人数を拡大し 22 名が育成プログラムに参加し、19 名がプログラムを修了しました。

研修プログラムの修了生たちは、それぞれの方法で孤立した子どもの支援活動・予防活動を継続しています。自分でプロジェクトを立ち上げたり、行政の方とのつなぎ役を担ったり、子どもの伴走者を継続したりしています。
このように、それぞれのかたちで育成されたコミュニティユースワーカーが活動することが子どもの孤立を予防する新しい共助のネットワークになっていくと考えています。

VOICE

コミュニティユースワーカー2期生　糸賀貴優

PIECES では、子どもたちと安定した信頼関係を築けるように、知識を学び、実践を重ねます。「子どもと接する際に自身の価値観を押し付けてアドバイスをしないように」「自身の感情の変化やその原因に気づくことができるように」と、社会福祉士をはじめ、子ども支援のプロであるスタッフとの対話を行います。
また、他のコミュニティユースワーカーとも一緒に行うので、現場の活動以外でも仲間として互いを知ることのできる機会にもなりました。

他団体への研修の提供

「人との関係づくり」に関する研修やワークショップを他団体や企業へ提供し、多くの人々の周りに豊かな関係が広がることを目的としています。

学習支援や子ども食堂、学習塾など、子どもに関わる民間団体や企業、行政向けに、子どもの発達やコミュニケーション、関係性構築についての研修や、リフレクションプログラムを提供しています。
また、企業向けには子どもとの関わり方の研修と実際の現場のツアーも行っています。

子どもとの関わり方を学ぶことは、その他の大人との関わり方にも通じます。より多くの人たちに人との関わり方の研修を提供することを通して寛容な社会をつくることを目的としています。

Community Youth Worker STORY

**コミュニティユースワーカー1期生塚原萌香が立ち上げた若年妊娠・出産をしたシングルマザーをサポートするプロジェクト「もえかん家（ち）」。
「ママが自分らしくいきいきと人生を歩める社会」を目指し活動している。**

10 代で妊娠、中絶。会えるだけで嬉しい、そんな存在。

加奈子ちゃん（仮名）は虐待家庭で育ったことから家出をし、10 代のうちに妊娠。今は、1 人でバイトをしながら子育てをしている物静かだけど芯の強い女の子。加奈子ちゃんが妊娠時に「にんしん SOS 東京(※1)」のホットラインと繋がり、そこから PIECES に繋がりました。

どちらかというと加奈子ちゃんは家に引きこもりがちで、人が集まる場に対して消極的でした。始めのころは、高卒認定資格の勉強を教えるというかたちで会っていましたが、徐々に連絡が途絶えがちになり、何か余計なことを言ってしまったのではないか、と自分の関わり方に迷うこともありました。

振り返ると、最初は加奈子ちゃんの自立に向けて勉強を教えなければならないと、自分の価値観が先立っていたように思います。しかし徐々に、こちらの思いを押し付けるのではなく、加奈子ちゃんのペースに合わせて一緒に歩んでいきたいと考えるようになりました。また、加奈子ちゃんの背景も聞く中、たくさんのことを乗り越えてきたパワーを感じ、私自身、彼女を尊敬する気持ちも高くなっていきました。

その後は、悩みの相談や子どもの話もしてくれるようになりました。加奈子ちゃんの方から私へ一緒にカラオケへ行こうと誘ってくれたこともあります。何気ないことかもしれませんが、普段あまり人と外出しない加奈子ちゃんが誘ってくれることは珍しく、以前より関係が近くなったと感じられた忘れられない出来事です。本当にそのことは心から嬉しかったです。

これまではほとんど特定の人以外と接することのなかった加奈子ちゃんですが、「もえかん家(※2)」に来るようになってから、様々な人と接するようになりました。地域の方との交流が生まれ一緒に料理を作ることもあります。また現在は 2 人の子どもを一緒に保育園へ送りながら働いています。

私は加奈子ちゃんに対してお姉ちゃん、友達のような存在になれたらと思っています。実際に加奈子ちゃんの方がしっかりしていて、料理など教わることもよくあります。私は加奈子ちゃんのことを本当に尊敬していて、会えるだけでうれしい存在です。今後も加奈子ちゃんの想いを聞きながら、一緒に悩み、考えながら必要な支援や人にも繋げていけたらと考えています。

塚原萌香　コミュニティユースワーカー 1 期生

フローレンス保育士。自身の家族も片親であったため、親が一人で子育て・仕事をして大変な姿を見て育つ。親が自分を犠牲にすることなく、いきいきとしていることで、子どもの安心感につながると感じ、ママを支援する「もえかん家」を企画運営。優しい眼差しと頑張り屋さんな姿勢が魅力的。

※1 一般社団法人にんしん SOS 東京 * 妊娠や出産、子育てに関する様々な問題に対する相談・支援活動をおこなっていらしゃいます。
※2もえかん家　*ママが自分らしくいきいきと人生を歩める社会を目指し、主に 10 代ママや若いママのサポートを行っています。

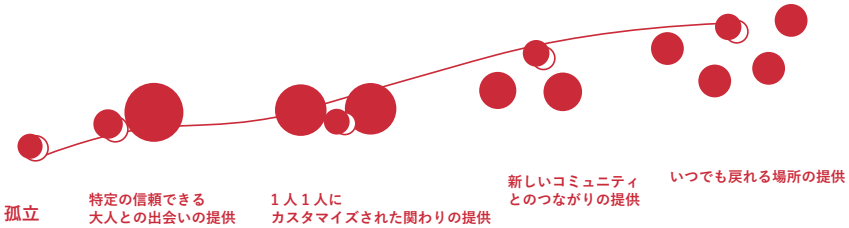
02. 子どもを支援する

コミュニティユースワーカーによる支援活動

子どもたちと日常を過ごし、信頼関係を構築し、困り事や興味関心に目を向け、多様な支援や機会、コミュニティにつなげています。

コミュニティユースワーカーによる子どもの頼り先の形成

孤立した子どもたちの支援を、コミュニティユースワーカー修了生が中心となり行っています。コミュニティユースワーカーの活動は、孤立した子どもたちと出会い、その子との関係を築いていくところから始まります。子どもと遊んだり一緒に時間を過ごすなかで、その子の気持ちを受け止め、信頼関係を築いていき子どもにとっての「信頼できる他者」を目指します。
関係性ができた後は、その子の困り事や興味関心にあわせた関わりや機会をつくります。そうしてその子の周りにコミュニティをつくり、多様な人との関係性をつくっていくことで、孤立した子どもたちは大人や社会への信頼を回復し、頼ることができるようになっていきます。



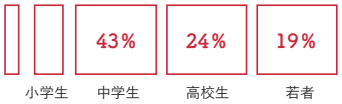
その子にあわせた支援のかたち：個別支援と集団支援

不登校や集団が苦手な子どもには、家庭訪問や、子ども1人に対して雑談やゲーム、ご飯を一緒に食べるなどの日常を通して個別訪問を行います。

集団支援では、子どもの興味関心にあわせ、多様な大人とのコミュニティやプロジェクトを立ち上げ、子どもとの関わりをつくっています。現在、高校生や中退した子を対象にした高卒認定試験の支援、ゲームクリエイターたちと一緒にゲームやアニメーションを学ぶ「クリエイティブガレージ」、地域や機関と連携して適応指導教室への訪問、放課後施設でのプロジェクトなどがあります。

子ども支援人数 230 人

2016.0601～2017.10.31(CYW 活動実績)



VOICE

中学生・Yちゃん

PIECES とかかわって、いままでわからないことが恥ずかしくてきけなかったことも、きいたらできるようになることを知り、先生にきけるようにもなった。教えててくれる人たちも一丸となって応援してくれるからすごい頑張れた。

いまでは親に相談できないことを相談できたり、くだらないことで笑ったり、この先の進路などなんでも話せる大事な場、人がいます。この場は勉強だけでなく人間関係も育つ気がした。

高校生・Uくん

イベントを毎月やっていて苦手なことが少し克服できた。それは初めての人とお話をすることです。

最初は全く話をすることができなかったけど、イベントに参加していくなかでどんどん話をできるようになり、今では自信が持てるようになりどんな人でも話ができるようになりました。オープンキャンパスに行ったりしてとても助かりました。将来の夢が幅広くなりました。他にも"山いきたい"と言ったら一緒に企画をしてくれてとても楽しくできました。

子どもをひとりぼっちにしないプロジェクト

現在、豊島区や足立区を中心に、コミュニティユースワーカーたちが子どもたちと接する活動拠点が複数あります。

それらは子どもたちのニーズや興味関心を中心にして展開されています。そのなかのいくつかを、クラウドファンディングを使って運営しています。市民の手とお金で、プロジェクトをつくり、継続できるような仕組みにしています。

https://camp-fire.jp/channels/pieces

▶これまでのプロジェクト

逆!?子ども食堂！料理を振る舞う楽しさを子ども達に

料理をつくる・振る舞う機会を提供

高校を辞めた子たちの、次の一歩を応援したい！

高校中退者などの再挑戦のサポート

不登校の子ども達に安心できる関わりを届けたい！

不登校の子どもの家庭に訪問

困難を抱える子供にプログラミング体験を届けたい！

子ども達でチームを作り、ゲームを開発

03. 社会に伝える

子どもたちの状況を伝え、社会全体で子どもの孤立の課題に取り組むため、講演、広報活動を行っています。

PIECES×スマートニュース株式会社「SmartNews ATLAS Program 2」

子ども領域で事業を行う非営利団体に対してSmartNewsアプリ上の広告枠1000万円分を無償で提供するATLASプログラムに採択され、3本の記事の配信を行いました。

※green.jp／ジモコロの両媒体共に、活動への共感を示してくださり、取材費はすべて無料で実施していただきました。

広告枠を活用した3本の配信記事

1. greenz.jp
「10代のママを尊敬しているし、会えるだけでワクワクするんです」
10代ママサロン・「もえかん家」で奮闘する保育士の塚原萌香さんの想い

2. greenz.jp
大切なのは、たったひとりの信頼できる大人。孤立した子どもと寄り添うコミュニティユースワーカーを育てる「NPO法人PIECES」の想い

3. ジモコロ
漫画でわかる『子どもの貧困』- ポイントは「3つの孤立」と「溜め」だった

その他メディア掲載

・yahooニュース
「お世話になった人」になる新たな支援のカタチを創造する若者たちの挑戦

・朝日新聞
心の傷に寄り添う「第4のスポーツ」、だんらんの場所に

・soar
大人になるまで途切れることのない「つながり」を子どもたちに届けたい。
子どもの権利と尊厳を守るPIECES小澤いぶきさん、荒井佑介さん

・東洋経済
児童虐待の背景に「育児資源の不足」がある。
児童精神科医が語る「親の愛情不足」への誤解

その他多数

講演活動

2017年 5月 ・株式会社フィリップスエレクトロニクス「子どもが楽しみながら歯磨きを習慣にするには ～子どもの発達心理と行動学の視点から～」
・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会「大学生だからこそ子どもの貧困問題にできること」

2017年 7月 ・東京芸術大学「子どもの貧困・孤立の現状と課題」

2017年 8月 ・内閣府 第1回青少年問題調査研究会「子供の孤立に向き合う―コミュニティユースワーカーの取組―」

その他多数

助成実績

Readyforでのクラウドファンディング実施＜2016/11～12＞

・プロジェクト名：「虐待・貧困の中を生きる子ども達を支える人材を育成したい！」
（参考 URL：https://readyfor.jp/projects/pieces）
・支援総額：5,670,000 円（目標金額：2,000,000 円）
・支援者数：477 名

認定NPO法人サービスグラント「事業戦略支援プログラム」実施＜2016/5～11＞

・ビジネススキルや専門知識を活かして、社会的課題解決に取り組む非営利組織（NPO・　地域活動団体等）の基盤強化を支援する「プロジェクト型助成」
（参考 URL：http://www.servicegrant.or.jp/project/pieces/）
・ファンドレイジングのためのマーケティング基礎調査の実施サポート

朝日新聞厚生文化事業団「朝日こどもの貧困助成」＜2017/1～12＞

・助成事業「貧困家庭の子ども・若者を継続的にサポートするコミュニティユースワーカー事業」
・助成額：1,000,000 円

大和証券福祉財団＜2017/1～12＞

・助成事業「板橋区の 10 代シングルマザーを対象にした生活支援および学習支援」
・助成額：293,000 円

キリン福祉財団＜2017/4～2018/3＞

・助成事業「居場所のない女子高生の支援事業」
・助成額：300,000 円

協働実績

2017年

PIECES×株式会社レッドクイーン「ゲームアプリコンテンツ開発」共同開催

ゲーム内で使われるキャラクターの衣装を子ども達がデザイン。PIECES に関わっている子ども達がデザインを考え、その中からレッドクイーン本社と PIECES とが選考を行い、実際のゲームに反映されました。なお、衣装は課金制で購入が可能となっており、課金された金額がそのまま PIECES への寄付となる仕組みになっています。

（参考 URL：https://camp-fire.jp/updates/view/26672）

PIECES×株式会社CAMPFIRE「子どもをひとりぼっちにしないプロジェクト」共同実施

GoodMorning by CAMPFIRE と共同で立ち上げ、LP を作成していただきました。（参考 URL：https://camp-fire.jp/channels/pieces）また、ゲストには、家入一真氏（CAMPFIRE 代表取締役社長）、湯浅誠氏（法政大学教授）を招き、キックオフイベントを開催しました（2017/3/30）。当日来場者は 100 名を超え、プロジェクト全体にも多くの寄付をいただきました。

（参考 URL：https://www.facebook.com/events/425349227811221/）

活動計算書

2016 年 11 月 1 日～2017 年 10 月 31 日

（単位：円）

科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
賛助会員受取会費	100,000	100,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	8,547,234	8,547,234	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	2,393,000	2,393,000	
4. 事業収益			
研修収益	1,034,998		
啓発・普及収益	397,207	1,432,205	
5. その他収益			
受取利息	31	31	
経常収益計			12,472,470
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
（1）人件費			
給料手当	5,324,359		
人件費計	5,324,359		
（2）その他経費			
業務委託費	538,291		
謝金	80,000		
印刷製本費	66,389		
会議費	225,381		
旅費交通費	939,305		
通信運搬費	232		
消耗品費	178,486		
地代家賃	634,883		
賃借料	15,500		
保険料	8,098		
研修費	15,050		
支払手数料	19,172		
新聞図書費	12,427		
雑費	116,379		
その他経費計	2,849,593		
事業費計		8,173,952	
2. 管理費			
（1）人件費			
給料手当	550,000		
福利厚生費	1,188		
人件費計	551,188		
（2）その他経費			
印刷製本費	1,080		
会議費	68,247		
旅費交通費	12,730		
通信運搬費	63,628		
消耗品費	46,289		
地代家賃	49,003		
諸会費	71,220		
租税公課	3,800		
支払手数料	24,250		
雑費	24,494		
その他経費計	364,741		
管理費計		915,929	
経常費用計			9,089,881
当期経常増減額			3,382,589
Ⅲ 経常外収益			
Ⅳ 経常外費用			
税引前当期正味財産増減額			3,382,589
法人税、住民税及び事業税			0
前期繰越正味財産額			△ 163,280
次期繰越正味財産額			3,219,309

Member

代表理事　小澤いぶき

児童精神科医/精神科専門医。
新潟大学医学部医学科卒業後、精神科医を経て、児童精神科医として複数の病院で勤務。トラウマ臨床、虐待臨床、発達障害臨床を専門として臨床に携わり、東京都、島根県、新宿区等、多数の自治体のアドバイザーを務める。2015年には、さいたま市の「子育てインクルーシブモデル」立ち上げに携わる。
その後、2016年6月にNPO法人PIECESを設立。現在も代表理事を務める。
J2017年には、世界各国のリーダーが集まるザルツブルグカンファレンスに招待を受け、子どものウェルビーイング達成に向けたザルツブルグステイトメント作成に参画。
Japan Womens Leadersship Initiative10期フェロー。

副代表　荒井佑介

ホームレス支援からはじまり、5年前に子どもの貧困に関わり始め、中学3年生の学習支援を皮切りに子どもの支援に力をいれる。子ども達に勉強を教えていく中で、彼らの抱える複合的な課題を学習支援だけでは解決できないと感じ、東京都内で居場所支援・家庭訪問・生活相談・進路支援・就労支援と子どものニーズにそって幅広く活動を広げる。出会った子にニーズに応じて、多様な大人の協力を募り、オーダーメイドの支援を展開している。

理事　斎 典道

社会福祉士。
大学在学中より国内外の社会的養護、地域子育て支援の現場でフィールドワークを実施。2012年には北欧の社会福祉を学ぶためデンマークに1年間滞在。国民の日常に溢れる、文化としてのウェルビーイングの価値に深い感銘を受ける。
日本福祉大学大学院在学中に代表の小澤と出会い、設立に参画。子ども・子育て家庭の教育福祉問題に対してシステミックな変革を追求する、独立型ソーシャルワーカーという新たな道を切り拓くべく猛進中。

理事　青木 翔子

東京大学大学院学際情報学府修士課程修了。株式会社MimicryDesignではリサーチャーを務める。自身がシングルマザー家庭に育ったことから、教育格差を肌身で感じ格差問題に関心を持ち、どんな子も尊重される社会 を目指して研究・実践を続けている。学習環境のエスノグラフィ、インタビューをはじめとする質的調査の方法を専門とする。リサーチとワークショップを組み合わせた人材育成プロジェクトを担当している。

Board Member

松川倫子（NPO法人Acumen）
田上佑輔（医師・やまと在宅診療所院長）
吉岡利代（国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ）
香川秀太（青山学院大学准教授）
谷口太規（弁護士）
田辺元（アクセンチュア株式会社）

寄付のお願い

月々1,000円からの寄付で、子どもたちに信頼できる繋がりを届けることができます。

この決して簡単ではないチャレンジを続け、十分な成果をあげるためには、1人でも多くの方からの応援が必要です。私たちPIECESの活動を寄付を通して支えるサポーターになりませんか？

月々 1,000 円の寄付

不登校の子どもに月 1 回継続的な関わりを届けるための訪問費用を出すことができます。

月々 3,000 円の寄付

家庭や学校で孤立する 5 人の子どもが月に 2 回多様な大人と夕食を共にすることができます。

月々 5,000 円の寄付

生きづらさを抱え非行に走る高校生 10 人が月に 1 回プロの大人とスポーツを通して交流することができます。

月々 10,000 円の寄付

コミュニティユースワーカー 2 人が 2 週に 1 回育成研修に参加することができます。

お振込先

任意の金額を下記口座にお振込みお願いいたします。

WEB からも受付中

ゆうちょ銀行から振り込む
ゆうちょ銀行 / 記号番号 10130 / 口座番号 78758551
名義 : 特定非営利活動法人 PIECES
＜トクヒ＞ピーシーズ

その他の銀行から振り込む
銀行コード 9900 / 018 支店　普通
口座番号 7875855
名義 : 特定非営利活動法人 PIECES
＜トクヒ＞ピーシーズ

VOICE

PIECESが大切にしている人と人とのつながり、何かあった時に話ができたり、一緒に笑いあえたり、一緒に泣いてくれたりする存在、それは孤立という状況におかれた子どもたちにとって重要ですが、それだけでなく、大人を含めたすべての人にとって大切なことなのだと思います。PIECESが目指す人のつながりに溢れた温かい社会を自分も見てみたいし、一緒に作っていきたいという気持ちで応援させていただいています。(30代/男性/会社員)

世界平和は、一人の人間として生まれた自分をありのままに愛し、自分自身と平和に日々歩むことから始まると信じています。でもそれは、誰も一人ではできないこと。この大きな地球の、長い長い歴史のなかで、同じコミュニティで出会えたことは奇跡！子どもと大人の垣根を越えて手をとりあい、ひとりひとりが尊厳を持って生きられる社会を創るPIECESを心から応援しています。(30代/女性/会社員)

これまでの歩み

2014
- PIECES の前身となる「任意団体 DIC」設立

2015

2016
- CYW1 期生活動開始
- NPO 法人化
- 設立パーティ開催
- ATLAS プログラム選出

2017
- クラウドファンディングにて 546 万円達成
- CYW2 期生活動開始
- 「子どもをひとりぼっちにしない」プロジェクト
- 内閣府中央大会で講演
- SVP プログラム選出
- CYW3 期生活動開始

NPO 法人　PIECES

住所	〒112-0002 文京区小石川 2-5-7 佐佐木ビル B 棟 4F ハーフハーフ
MAIL	info@pieces.tokyo
Web サイト	http://www.pieces.tokyo
Facebook	https://www.facebook.com/pieces.tokyo

©2017 PIECES